

# 姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

# ニュース

協会報

第 13 号

平成元年10月11日発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



大リーグ・ミネソタ・ツインズのメトロドーム球場で5試合した少年野球チーム

## 目次

- ミネアポリス市から少女合唱団と少年サッカーチーム初めての来茨…………… P 2 ・ P 3
- 茨木市民親善訪中団 2 度目の安慶市訪問…………… P 3
- 今夏、これまで最高の93人がミネアポリス市訪問…………… P 4 ・ P 5
- 国内姉妹都市・小豆島内海町との交流始まる…………… P 6
- ラルフ・ボスマンさん紹介、会員募集、活動室へどうぞ…………… P 7
- 11月3日に英語スピーチ大会、寄付、国際交流の足あと…………… P 8

▼さようならパーティーで談笑する両市合唱団員



▲優秀選手のメダルを受けるミ市サッカー選手



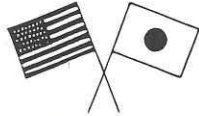
▲お別れに合同合唱を再演

### カント・ボイス少女合唱団公演

主催 茨木市・茨木市国際親善都市協会



▲公演で澄んだ歌声を披露



試合は健闘むなしく全敗(左)なごりを惜しんで「ほたるの光」を合唱(中)腕ずもうてかくらべ(右)

## 少女合唱団

## 少年サッカーチーム

# 深まる三市との青少年交流

年々深まるミネアポリス市との青少年交流に、今年また新たなページが開かれました。

6月には、1976年、指揮者ジャニス・カイズ女史により創設された、ベル・カント・ボイス少女合唱団が来茨しました。

合唱団は、市民会館大ホールで昼夜2回の公演を行い、賛助出演した茨木市児童合唱団と府立春日丘高校音楽部とともに、洗練されたすばらしい歌声を聴かせてくれました。

また、8月には、本市の少年サッカーチームがミネアポリス市で開催されたUSA杯少年サッカー大会に参加した際に、ホストチームとして大変お世話になった、メイプル・ブルック少年サッカーチームが来茨し、市民サッカー大会中学生の部に参加するなど交流の輪を広げました。

両訪問団とも初めての来日で、ホームステイなどにより日本の生活習慣に触れ、相互理解を深めました。

## 交流に参加して



### 言葉は違っても

春日丘高校音楽部  
長谷川 郁子

合唱団の人たちは、  
ゆっくり話してくれ、  
私たちも緊張しながら話しました。

うまく通じたかどうかはわかりませんが、言葉は違っても、歌が好きという同じ心を持っている限り、心をひとつにして歌うことができるのだなあと感じました。

合唱団の澄んだ歌声と笑顔をいつまでも忘れないでいたいと思います。



会場を盛り上げたCMソングメドレー



### ぼくも国際人

豊川中サッカー部  
潮平 尚哉

同じ中学生とは思えない体格にびっくりしましたが、互角に戦えて良かったです。

カンカン照りの暑い中の試合だったのに、よく声をかけあっているアメリカチームの姿に感心しました。

さようならパーティーでは、ぎこちない英語でも通じ、腕ずもうをしたり、一緒に写真を写したりして、ぼくも国際人になったような気分でした。



黄梅劇学校で記念撮影(上)完成した新しいショッピングセンター(左)あざやかな手品で歓迎(右)

## “新しい安慶の顔を視察”

### 市民訪問団2度目の訪中

若葉萌える5月初め、昨年に引き続き、市民親善訪中団が安慶市を訪れました。

一行の半数が訪問経験者ということもあり、行く先々で熱烈歓迎を受け、初めての訪問者にとっても大感激の訪問となりました。

また、新しくできたばかりのショッピングセンターや急ピッチで整備中の大湖公園など、新しい安慶の顔も見学することができました。



### 憧れの黄梅劇学校に感激

市民親善訪中団員 永田 康子  
あのすばらしい黄梅劇学校を本当に訪問できるのだろうか胸の高鳴

る思いでした。

観劇後に、舞台上に上り、衣装にさわらせてもらったり、記念写真におさまり、自ら手をさしのべてくれる女優さんの可愛さを今も忘れることができません。



# 市民93人が



▲パレードで声援に応える両市長

▲沿道の大観衆を魅了した水上祭パレード

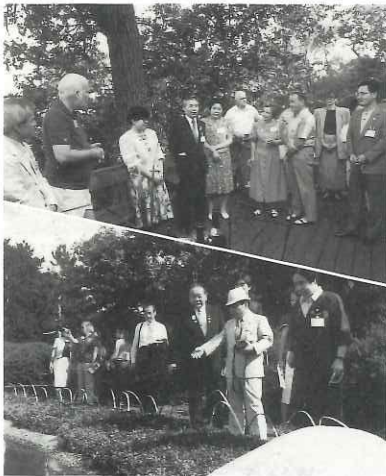
ミネアポリス市最大のイベント「水上祭」の50周年に当たる今夏、これまで最高の93人がミネアポリス市を訪れました。

皮切りは、水上祭への市民親善訪問団で、昨年の茨木市制施行40周年記念式典の答礼のため訪れた重富敏之茨木市長とともに、多彩な歓迎行事への参加、ホームステイなどを通じてミネアポリス市民との親交を深めました。

また、恒例の少年野球チーム・市民親善訪問団は、残念ながら水上祭行事には参加できませんでしたが、ドーム球場での試合やホームステイなどに数多くの思い出を残しました。

そのほか、ミネソタ州国際語学村に昨年開設された日本語村のカウンセラーとして6人の青年が参加、市職員2人も海外研修生として派遣されました。

▶歓迎パーティー(上)コモ公園見学(下)



## 彼の国・アメリカ

水上祭市民親善訪問団

副団長 稲本 利雄

古き年来の友を迎えるという雰囲気ではじまった歓迎

パーティー。食事も服装も凝らない人々に、これがアメリカなんだと感じました。

広大な土地をキャンパスに、凝らない人々が自由に描いた国アメリカ。その絵は日本画の手法である空間の想像力が見させる造りで、その空間が彼の国の力なのではないでしょうか。

## 教える以上に学ぶ

日本語村参加訪問団

団長 才脇 直樹

日本語村は、主に、ミネソタ州とその周辺の小学生

から高校生までが、勉強と休暇をかねて、本当の日本文化を求めてやってきます。

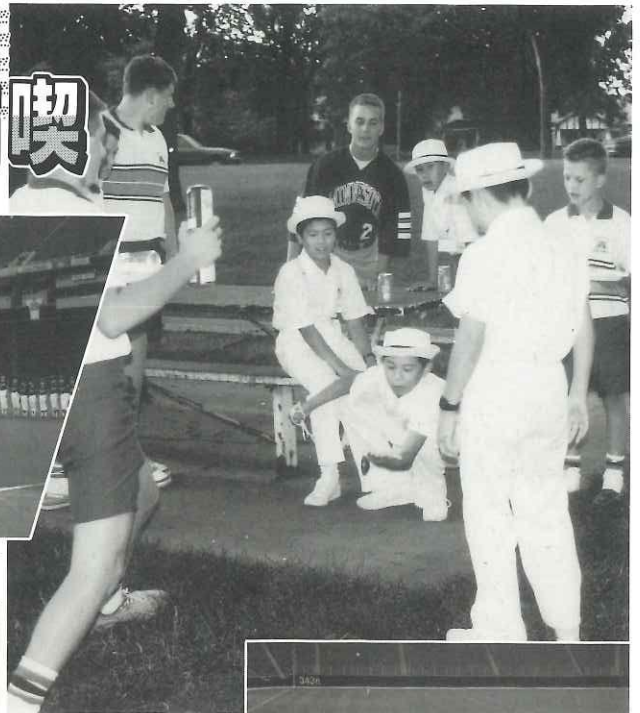
我々にとって、本当のトラディショナルとは一体何なのでしょう。若者産業が肥大化する一方、真の大人の文化はないと批判される現代日本。子どもたちに教える以上に彼らから学んだ様な気がします。

ミ市を訪れて

# 三市の夏を満喫



▲ミ市長の始球式で始まったドーム球場での試合



ゆかた姿で指導するカウンセラー(上)  
日本語村に鯉のぼりを掲揚(右)



▲ミ市選手に“こま”の実演(上)ドーム球場で市民訪問団も応援(下)



## 大阪弁風英語を連発

少年野球チーム

副主将 川上 貴志

ホームステイに入って大阪  
弁風英語を連発し、通じない

ことも多くありましたが、なんとか通じた時の喜びは大きくて、きれいな英語も少し好きになりました。

試合は2勝6敗と負けこしましたが、ぜんぜん歯がたたない相手ではないということがわかっただけでも良かったと思います。

I never forget MINNEAPOLIS.



## YES、NOをはっきりと

市民親善訪問団

団員 抱 亜希子

アメリカ人は、YES、NO  
をはっきり言う聞いていま

したが、本当にそのとおりで、ホームステイの家の子供が、「はっきりしなさい」とお母さんから言われているのをよく聞きました。私もはっきり答えるように気をつけました。

ミネアポリスは、信じられないくらい美しい自然があり、今度行く時にも、私が見たきれいな自然のままであって欲しいです。

カヌーに挑戦する茨木市の小学生



星空の下でキャンプファイヤー



# オリーブの島内海町で 広がる市民交流

昨年の10月に、国内で初めて姉妹都市を結んだ小豆島の内海町との交流が、春の訪れとともに始まりました。

これまでに、13団体508人が相互訪問し、それぞれ活発な交流が展開されていますが、特に、水泳連盟の臨海学校や教育委員会主催のこども交歓事業などは、日頃海に親しむ機会の少ない本市の

こどもたちにとって貴重な体験であり、夏休みの良い思い出となったことでしょう。

本協会では、5月に「茨木市・内海町姉妹都市委員会」を設置し、両市町の市民交流の推進と各種団体間の交流の支援をはかるとともに、今秋、同委員会を主体とした市民親善訪問団の派遣を計画しています。



▲内海町長・議長が茨木市民にあいさつ

▼オリーブ王国女王もパレードに参加



西田幸子

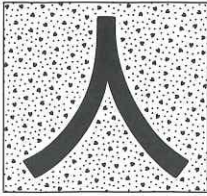
## 今年の内海町との市民交流

(平成元年9月末日現在)

区分	時期	団体名	参加人員	目的
訪問	3. 7~ 8	茨木地区保護司会・茨木市更生保護婦人会	43人	研修
"	3.27~31	日本ボーイスカウト大阪連盟三島地区茨木第1団	15人	小豆島一周アドベンチャーキャンプ
"	5.13~14	茨木市医師会	34人	視察
"	5.18~19	茨木市有功者政友クラブ	28人	総会
"	5.21	茨木市民	9人	'89小豆島オリーブマラソン全国大会参加
"	6.29~30	茨木市消費者協会	44人	研修
"	7.24~26	茨木市水泳連盟	181人	臨海学校
受入	7.29~30	内海町	5人 5店舗	茨木フェスティバル参加 小豆島物産展出店
"	8. 7~ 9	内海町教育委員会	53人	こども交歓事業
訪問	8. 7~ 8	茨木市公立小学校長会東ブロック	8人	研修
"	8.20~22	茨木市教育委員会	52人	こども交歓事業
"	8.23~24	茨木市公立小学校長会南ブロック	8人	研修
"	9. 5~ 6	茨木市老人クラブ連合会	28人	役員研修会



野外活動センターで自己紹介する内海町の小学生



## ラルフ・ボスマンさん

英語スピーチ大会で講評するボスマン先生

### 生きた英語の アドバイザー



人物登場の2回目は、英語スピーチ大会の審査委員長、ラルフ・ボスマン先生をご紹介します。

ボスマン先生は現在、関西外国語大学助教授で、英語・フランス語の語学や文化を教えていらっしゃいます。第2回英語スピーチ大会からの審査員、姉妹都市活動室でのスピーチクリニックなどを通して「わかりやすく、発音もきれいで流暢に話される方が多くなってきていますが、スピーチをするときは、自分の体裁にとらわれず、伝えたいことをもっとと表現してほしい。」とアドバイスをされています。

日本に来られて13年になるそうですが、茨木市に住んでいらっしゃる頃は、自然が沢山残っている千提寺や大岩といったところへのドライブを楽しまれたそうです。イギリスと比べれば、まだまだ住宅事情などの面で窮屈だと感じることもあるそうですが、家族でテニスや乗馬、ショッピングなどをして楽しい休日を過ごしていらっしゃるようです。

また、「これからは世界中の人々が束縛から開放され、自由に生きられる社会になることを願っています。」と語っておられました。

## 協会会員募集

本協会では、姉妹・友好都市交流をはじめ、国際親善に熱意を持っておられる方々の入会を心からお待ちしています。

会員には、年2回発行しています協会報などによる本市国際活動情報の提供、会の催す姉妹・友好都市との交流行事・ゴルフコンペ等へのご案内をいたします。

### <会費(年額)>

個人会員(一般)	2,000円
(学生)	1,000円
団体・法人会員	一口 5,000円

### <申込先>

協会事務局(市役所 3階 自治推進課  
国際交流係 電話 22-8121 内線2143)

## 姉妹都市活動室

姉妹都市活動室では、英語力および国際感覚向上のため、月2回、オークシアター(福祉文化会館)内で、外国人ゲストを迎えて、講演会や研究会などを英語で行っています。

<例会> 木曜会 第1木曜日午前10時  
土曜会 第3土曜日午後2時

<会費(年額)> 正会員 1,000円(18歳以上)  
準会員 500円(中・高校生)



## 青少年活動室

青少年活動室では、中・高校生が気軽に参加して、外国人ゲストと話したり、歌ったり、ゲームをしたり、学校の授業とは一味違った英語の勉強会を開いています。

<例会> 原則として第4日曜日午後2時から  
オークシアター(福祉文化会館)で

<会費> 半年で300円(中途入会は月50円で計算します。)

# 11月3日に「英語スピーチ大会」

第5回大会から

ご来場をお待ちしています

英語を通じて、21世紀を担う夢多き青少年の国際感覚を養い、国際親善と世界平和に寄与しようと始めた、本協会主催の「英語スピーチ大会」も今年で第6回目を迎えます。

中学生は暗唱課題、高校生は自由課題により競われ、身ぶり手ぶりをまじえて個性豊かなスピーチを披露する楽しい大会で、年々ハイレベルな戦いとなっています。

多数のご来場をお待ちしています。

日時 平成元年11月3日(祝) 午後1時～

場所 オークシアター(茨木市福祉文化会館)

5階 文化ホール



## 寄付

本市の国際交流事業の推進のためにと、次の方々から温かい

ご寄付をいただきました。ご好意に心からお礼申し上げます。(5月～9月、敬称略)

<協会へ> 6月・西村静雄(69,199円)

<市へ> 8月・(宗)弁天宗冥応寺(110万円)

9月・日本民謡朝鳳連合会(10万円)

## 茨木市における国際交流の足あと

——第12号以降の経過——

(1989年)

- 1.5 「姉妹・友好都市ニュース」第12号発行
- 5 協会定期総会開催(市役所大会議室)
- 5 内海町の「'89小豆島オーリーブマラソン全国大会」に市民9人参加
- 5 ミネアポリス・トリビューン紙オンブズマンのルイス・I・ギルファンド氏来茨
- 6 第6回協会ゴルフコンペ開催(茨木国際ゴルフ倶楽部)
- 6 ベル・カント・ボイス少女合唱団一行55人来茨
- 7 ミネアポリス水上祭への市民親善訪問団一行27人ミ市訪問
- 7 重富敏之茨木市長ミ市訪問。ミネアポリス水上祭パレードに参加
- 7 市企画部次長野村宣一氏、総務部次長松澤茂氏、海外研修のためミ市訪問。企画・財政などについて視察(2週間)
- 7 ミネソタ州国際語学村日本語村のカウンセラーとして市民6人参加(約1ヵ月)。協会理事岡田資子さんミ市まで同行
- 7 少年野球チーム・市民親善訪問団一行55人ミ市訪問
- 7 茨木フェスティバルに、川西寿一内海町長、森福守内海町議会議長、オーリーブ王国の女王参加。小豆島物産展開催
- 8 メイプル・ブルック少年サッカーチーム一行16人来茨
- 8 内海町と「こども交歓事業」実施(茨木市52人、内海町53人参加)
- 8 安慶市毛布工場訪日視察団一行4人来茨



▲盛況の小豆島物産展

▲▲オリーブマラソンのスタート  
ミ市の家庭に招かれた市研修生



毛布工場視察団市長表敬